

## 二丈岳発見の経筒について

1. 出土品 陶器製経筒、平安時代、総高 36.2 cm

2. 出土地 糸島市二丈一貴山 二丈岳中腹

3. 出土品の概要

発見された経筒は、平安時代の後半（12世紀頃）に埋納されたものです。この頃、釈迦の入滅後 1500 年（2000 年ともいう）には、仏の教えがその効力を無くしてしまう末法の時代に入ると考えられており、後世に仏の教えを伝えるために経典を埋納する納経が盛んに行われました。納経は陶器製や金属製の筒に入れて行われ、この筒を経筒、経筒を収めた石組みなどを経塚と言います。

今回発見された経筒は、中国南部の越州地方で作られた陶器製ですが、中国での発見例はなく、日本でも北部九州などでしか発見されていないことから、特別に中国に注文して作られた品であると考えられています。

経筒が発見された二丈岳は、旧二丈町の町歌では「霊峰二丈」などと歌われ、かつては山頂部は女人禁制であり、刃物を持って入山すると大風が吹き災害が起こるなどと伝えられる一方、宗教的な遺構があまり残っていないことから、霊場としての位置づけは明確ではありませんでした。ところが今回の発見によって、宗教の場として栄えた往時の二丈岳の姿がより鮮明となり、また、佐賀県の脊振山山頂付近の経塚群や鏡神社経塚群、霊仙寺経塚群から出土したものと類似する経筒が発見されたことから、脊振山系の山々に展開する宗教者集団のネットワークが二丈岳にも及んでいたことも確認されました。

また、発見された経塚の位置が様々な伝説をもつ「怡土郡七ヶ寺」のひとつ、「一貴山夷巍寺」の広がりが見込まれる範囲内であることから、一貴山夷巍寺における山岳信仰の起源が平安時代にまで遡ることも確認されました。

さらに福岡県は全国的にみても経塚の発見例が多い地域ですが、その多くが土取りなどの工事中に不時発見されたものです。また経筒が古美術品としての市場価値が高いことから盗掘の対象となるため、出土場所すら明確でない経筒も少なくない状況が見受けられます。

糸島市でも雷山や高祖山、火山周辺などでの発見例がありますが、いずれも出土状況は明確ではありません。ところが今回の発見は、糸島市と福岡県教育委員会（九州歴史資料館）の文化財関係職員の脊振山系の山岳霊場遺跡調査の中での発見・調査によるものであり、発掘調査が行われた経塚としては福岡県内でも数少ない例となりました。

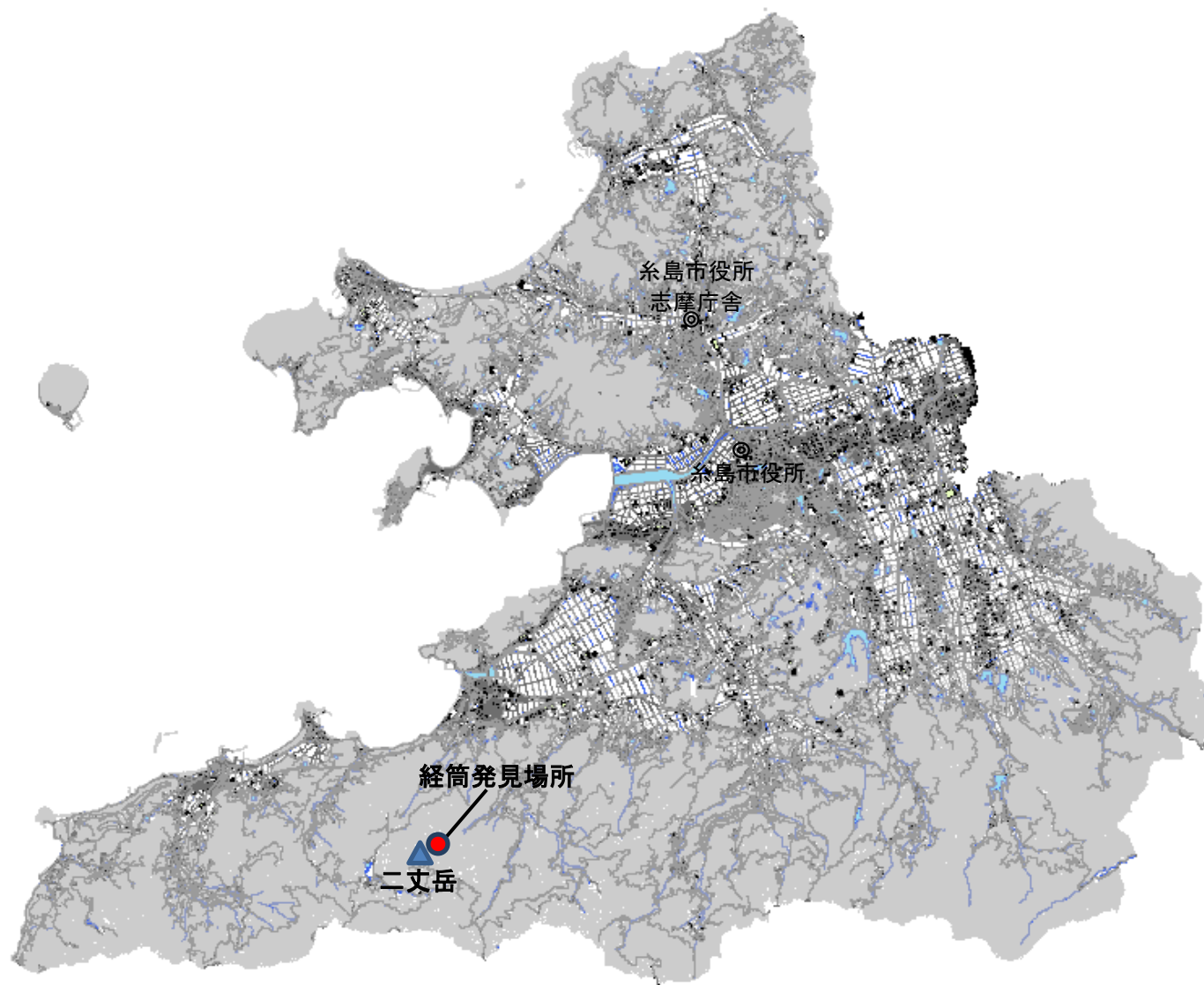
なお、今回の出土品は脊振山系の山岳霊場遺跡調査の成果と共に、別紙のとおり、伊都国歴史博物館冬季特別展において展示いたします。



経筒の出土状態



出土した経筒



二丈岳の経筒発見場所(1/100,000)

科学研究費若手研究(B)「寺院遺構・信仰遺跡からみた脊振山信仰」研究成果展  
伊都国歴史博物館・九州歴史資料館共同開催特別展

## 「国境の山岳信仰 —脊振山系の聖地・霊場を巡る—」

～脊振の峰に金胎両部の両界曼荼羅を描く～

### 開催概要

福岡県と佐賀県の県境は、かつての筑前国と肥前国の国境で、東西に長く脊振山系の稜線が延びている。その稜線は標高 1,055m の脊振山を頂点として、東には蛤岳、石谷山、九千部山、権現山、西には金山、井原山、雷山、羽金山、女岳、浮岳、十坊山と、標高 600～800m 級の山々が連なり、山系の全長は約 80km にも及ぶ。

古来、山に対する信仰によって、脊振山系には数多くの聖地・霊場が営まれてきた。脊振山の上宮東門寺跡、中宮霊仙寺跡をはじめとして、雷山には千如寺、浮岳には久安寺跡などの寺院が存在するばかりではなく、自然崇拜に基づき、峰から峰を巡り歩く山岳密教僧による回峰、修験者による峰入りが行われた際の行場、拝所、埋経遺構(経塚)などが山系の各所で確認されている。

本企画展では、筑前と肥前の国境にあたる脊振山系の稜線踏査などの現地調査により明らかになった脊振山系の古代から中世にかけての山岳信仰の姿、さらには筑肥の国境が分断され、それ以前の信仰の姿にもはや戻ることがなくなったきっかけとなった、脊振山をとりまく近世の国境争論についても紹介する。

主催 伊都国歴史博物館・九州歴史資料館

会期 平成 28 年 1 月 30 日(土)～3 月 13 日(日)(月曜休館)

会場 伊都国歴史博物館企画展示室(糸島市井原 916 TEL: 092-322-7083)

開館時間 午前 9 時～午後 5 時

### 展示構成

はじめに —国境の峰を巡る—

- 1 脊振山 —山頂経塚・東門寺・霊仙寺—
- 2 峰の東西 —武蔵寺と鏡神社—
- 3 山系・山麓の寺社 筑前と肥前と

おわりに —江戸時代の国境争論—

トピック 脊振山と修学院文書

## 主な展示資料（予定）

- ・西持院文書（西持院所蔵）
- ・版木・中世文書等（脊振山修学院所蔵）
- ・脊振山経塚出土銅製経筒（佐賀県立博物館所蔵）
- ・脊振山山頂採集三鈷杵（九州歴史資料館所蔵）
- ・「背振山」銘銅製経筒（佐賀県立博物館所蔵）
- ・霊仙寺出土遺物（吉野ヶ里町教育委員会所蔵）
- ・背振山堺図（九州大学附属図書館所蔵）
- ・武蔵寺縁起絵（武蔵寺所蔵・ふるさと館ちくしの保管）
- ・武蔵寺経塚出土遺物（武蔵寺所蔵・ふるさと館ちくしの保管）
- ・鏡神社経塚出土遺物（鏡神社所蔵）
- ・浮嶽神社仏像（浮嶽神社所蔵）
- ・雷山古図（雷山千如寺所蔵・福岡市博物館保管）
- ・懸仏（個人蔵・伊都国歴史博物館保管）
- ・二丈岳出土遺物（糸島市教育委員会所蔵）

## 関連イベント

関連講座（博物館講座『伊都学』第7回）

「近世の背振山 九州大学附属図書館所蔵『背振山堺図』から」

日 時 平成28年2月11日（木・祝）14時～15時30分

会 場 伊都国歴史博物館 研修室

講 師 服部 英雄 氏（九州大学名誉教授）

### ミニシンポジウム

（科学研究費「寺院遺構・信仰遺跡からみた脊振山信仰」研究成果報告/博物館講座『伊都学』第8回）

「国境の山岳信仰 脊振山系の聖地・霊場を巡る」

日 時 平成28年3月6日（日）13時～16時

会 場 伊都国歴史博物館

報告者 山本 義孝 氏（袋井市歴史博物館・彦山研究会）

吉田扶希子氏（西南学院大学・九州山岳霊場遺跡研究会）

岡寺 良 （九州歴史資料館・九州山岳霊場遺跡研究会）

## 担 当

九州歴史資料館 学芸調査室学芸研究班 岡寺 良

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3

TEL 0942-75-9501 FAX 0942-75-7834

伊都国歴史博物館（糸島市教育委員会文化課博物館係）中牟田 寛也

〒819-1582 福岡県糸島市井原 916

TEL 092-322-7083 FAX 092-321-9155

## 主要展示品の紹介



佐賀県指定重要文化財  
「脊振山」銘銅製鏡筒  
(せふりさんめいどうせいきょうづつ)  
(佐賀県立博物館蔵)  
脊振山出土と伝えられる銅製の鏡筒。康治元年(1142)の銘があり、脊振山の信仰を裏付ける。



青銅製三鈷杵  
(せいどうせいさんこしよ)  
(九州歴史資料館蔵)  
鎌倉～室町時代の三鈷杵(仏教の法具)。昭和12年(1937)に脊振山山頂付近で採集された。



糸島市指定文化財  
菩薩形鏡像  
(ぼさつぎょうきょうぞう)  
(個人蔵)  
銅板に菩薩像を刻む平安時代末の鏡像で、脊振山系に連なる二丈岳の麓、一貴山地区に伝来。